

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

上之内遺跡

——第2次発掘調査報告書——

令和5年12月

郡山市教育委員会

序 文

郡山市は、福島県のほぼ中央に位置し、豊かな自然に恵まれ、その地理的特徴から、原始・古代より交通の結節点として東西南北から、さまざまな地域の文化が集まり、それらを礎として多様な文化が形成されてきました。

文化財は、地域の歴史や文化を理解する上で欠くことのできないものであり、地域文化の向上・発展の基礎となるものであります。その中でも、埋蔵文化財は文字の無い時代や文献史料の少ない地域の歴史や文化を解明するための貴重な資料です。

郡山市教育委員会では、本市の歴史や文化を解明する貴重な財産である埋蔵文化財を後世に遺し、継承していくことが現代に生きる私たちの大きな責務であるとの認識のもと、埋蔵文化財の保存と活用に努めているところであります。

上之内遺跡は、阿武隈川左岸沿いに位置し、これまでの調査で古墳から中世までの散布地並びに城館跡であることが確認されていきました。調査地の近隣では、過去に発掘調査が実施され、城館の一部や多くの溝跡やピットが発見されました。この度、遺跡内での宅地造成に伴い実施した発掘調査では、溝跡が多数発見され、遺跡の外側へと伸びることが確認されました。

本書は、発掘調査の成果を周知し、活用できるように後世に残す記録としてまとめたものであります。今後、地域の歴史解明の基礎資料や研究資料として、広く皆様に活用していただきますとともに、埋蔵文化財の保存と活用について御理解をなお一層深めていただければ幸いに存じます。

結びに、発掘調査実施から報告書作成にあたり、御尽力を賜りました株式会社ランド・コックス不動産販売をはじめとする関係各位に敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げ序文といたします。

令和5年12月

福島県郡山市教育委員会
教育長 小野 義明

調 査 要 項

遺跡名(次数)	上之内遺跡(第2次)
所在地	福島県郡山市富久山町福原字陣場
履行期間	令和5年7月21日～令和5年12月22日
発掘調査期間	令和5年7月21日～令和5年8月18日
発掘調査面積	344㎡
調査委託者	株式会社ランド・コックス不動産販売(代表取締役 国府田明弘)
調査受託者	郡山市(市長 品川萬里)
調査主体者	郡山市教育委員会(教育長 小野義明)
調査担当者	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社(代表理事 浜津佳秀)
事務局	郡山市文化スポーツ部文化振興課文化財保護係(係長 濱田暁子)
調査員	垣内和孝
調査補助員	菅田義克
業務従事者	垣内 菅田 今泉淳子 安齋一十三 塚原讓 橋本志津 柳田栄造 山田秀和 吉田イチ子

例 言

1. 本書は、福島県郡山市富久山町福原に所在する上之内遺跡の宅地造成に伴う記録保存を目的とした第2次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査および整理報告に関わる費用は株式会社ランド・コックス不動産販売が負担した。
3. 本書は、公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センターが編集し、郡山市教育委員会が発行した。
4. 本書の執筆は、1・3～5を垣内和孝、2を郡山市文化振興課文化財保護係の荒木麻衣が行なった。
5. 遺構・遺物の図面作成は垣内和孝・菅田義克・今泉淳子・吉田イチ子が行なった。
6. 遺構・遺物の写真撮影は垣内和孝が行なった。
7. 調査に関わる記録・資料および出土遺物は郡山市教育委員会の保管である。
8. 本書の作成にあたり、以下の文献を参照した。

青山博樹「古墳時代前期の土器編年」

辻秀人先生還暦記念論集刊行会編『北杜』同会 2010年

垣内和孝「郡山市富久山町福原「中田館跡」から考える豪族居館・有力古墳と地域」

『郡山地方史研究』第52集 2022年

郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団編『上之内遺跡』郡山市教育委員会 1996年

目 次

序 文

調 査 要 項

例 言

目 次

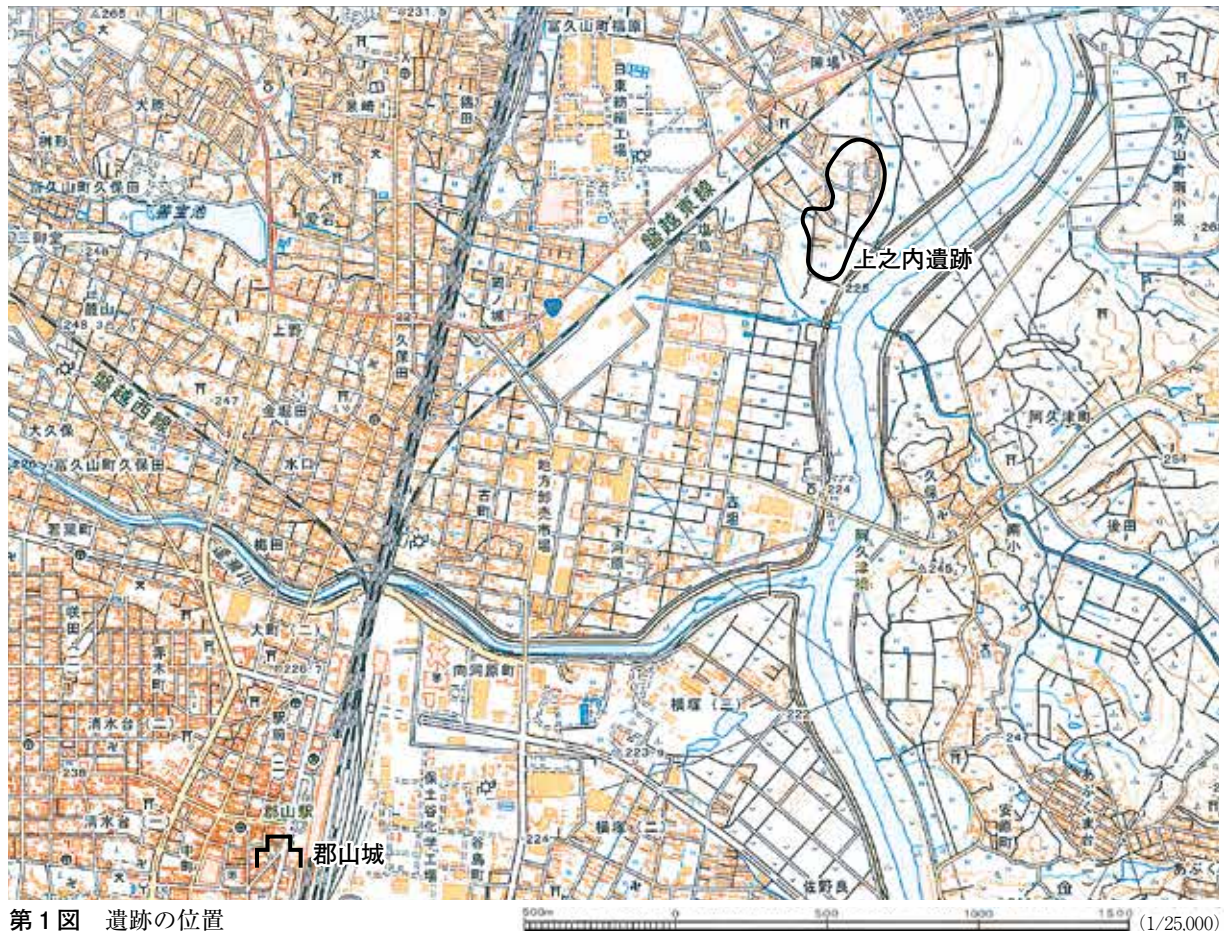
1. 位置と概要	1
2. 調査に至る経緯	4
3. 調査の経過と方法	4
4. 遺 構	5
5. 遺 物	10

写 真 図 版

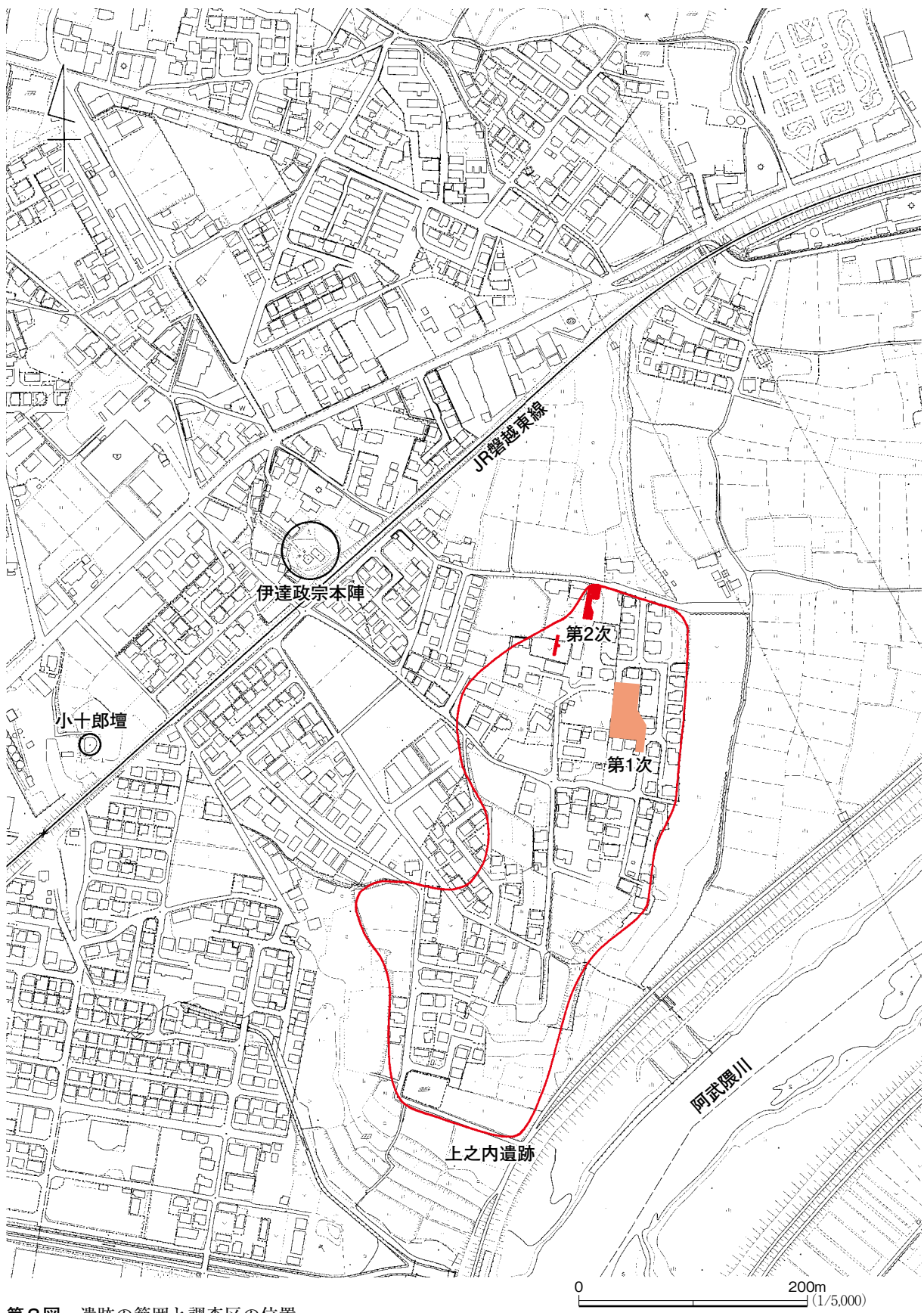
報 告 書 抄 録

1. 位置と概要

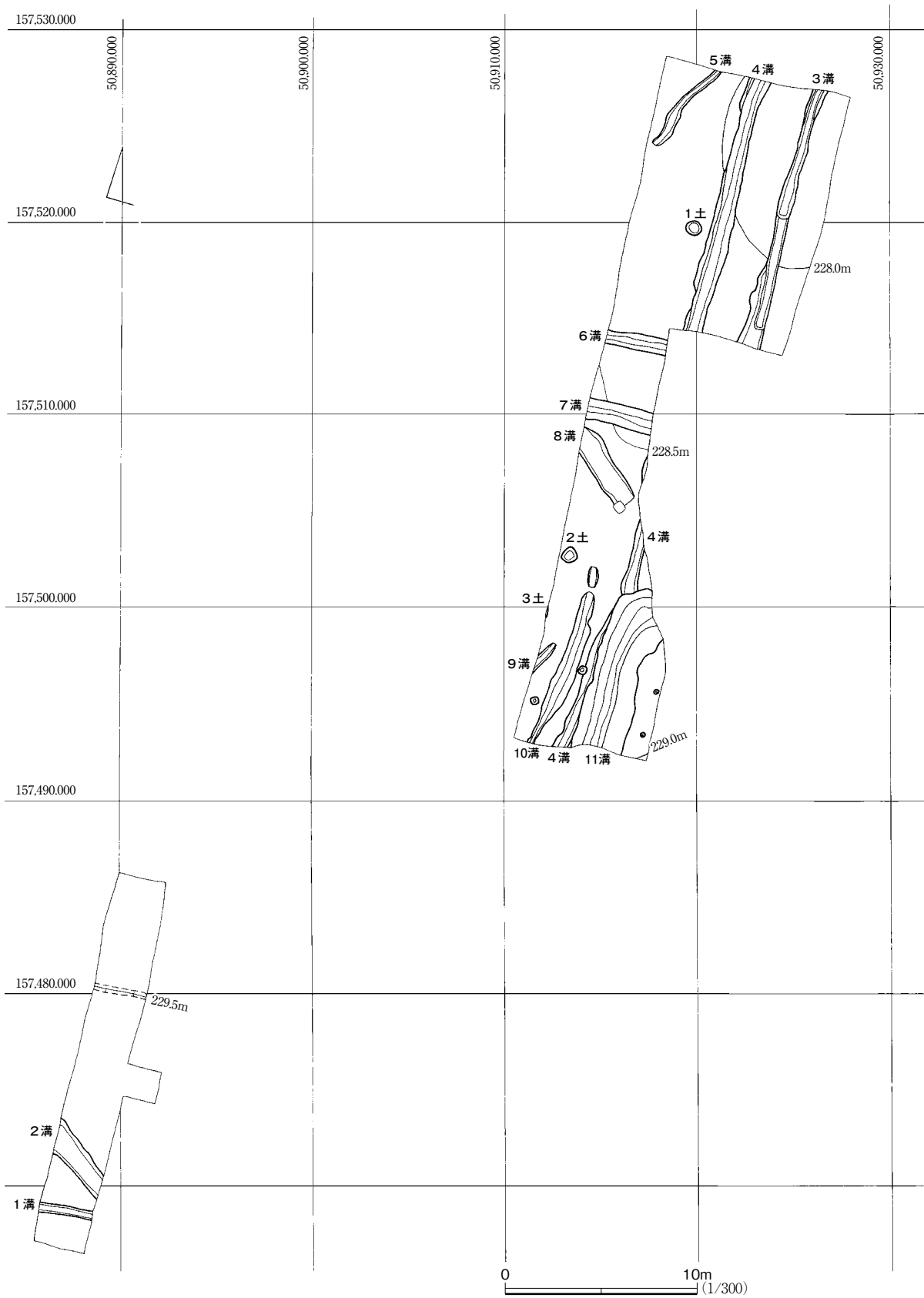
福島県郡山市富久山町福原に所在する上之内遺跡は、阿武隈川西岸沿いの低位段丘上に立地する。段丘上には微地形の凹凸があり、遺跡が広がるのは北西から南東に迫り出す微高地の先端である。平成7年度に実施した第1次発掘調査では、古墳時代前期の竪穴建物と14世紀を中心とした時期の溝・集水遺構などがみつかった（郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団 1996年）。今回実施の第2次発掘調査で確認した遺構は、溝が11条、土坑が3基、ピットが4基で、出土した遺物は古墳時代前期の土師器である。時期が明確な遺構は、当該期の土師器がまとまって出土した2号土坑のみである。溝から出土した遺物には流れ込みなどによる混入を含むだろうが、比較的多くの土師器が出土した2・8号溝は古墳時代前期であろう。1・3・4・6・7号は、第1次調査の溝と近い時期と考えられる。その1つである4号溝と重複する11号溝は、これより新しく、薬研堀のような形状から中世後期と考えられる。同じ微高地上には、遺跡の西に近接して、径約20mの円墳とみられる小十郎壇古墳がある。さらにこれに隣接し、現状で径約50m、高さ5mほどの円形基調の小丘が存在する。天正16年（1588）の郡山城をめぐる郡山合戦に際し、伊達政宗が本陣を置いた場所である。近接して小十郎壇古墳があること、かつて周辺で古墳時代の遺物が出土したこと、近接する本遺跡において古墳時代前期の集落が見つかったことなどから、古墳が陣所として利用されたと評価する見解がある（垣内 2022年）。



第1図 遺跡の位置



第2図 遺跡の範囲と調査区の位置



第3図 第2次調査区

2. 調査に至る経緯

埋蔵文化財包蔵地の上之内遺跡地内で宅地造成の計画の相談があり、令和5年5月16日、17日及び6月8日に対象となる開発区域1,867.25㎡に、トレンチを11本設定し、調査面積179.4㎡の試掘調査を実施した。

調査の結果、現表土面から25～94cmの深さで、竪穴遺構や土坑、溝跡等を検出し、土師器片や鉄製品が出土した。そのため、埋蔵文化財に関わる遺構・遺物が確認された範囲の1,310㎡を要保存範囲と判断した。

その後、事業地の埋蔵文化財の保護・保存について、協議が持たれ、工法変更等による現状保存が困難であると結論に達し、記録保存を目的とする発掘調査を実施することで合意に達し、遺跡の保存が不可能となる範囲344㎡の発掘調査を実施することとした。

これを受けて、上之内遺跡第2次調査及び発掘調査報告書作成において、令和5年7月13日付けで株式会社ランド・コックス不動産販売と郡山市との間で委託契約が、令和5年7月19日付けで郡山市と公益財団法人郡山市文化・学び振興公社との間で委託契約がそれぞれ締結された。

3. 調査の経過と方法

業務に着手したのは7月21日である。重機を用いて、表土・耕作土の除去を開始した。表土の除去は25日まで行ない、同日から人力による遺構の検出を始めた。発掘調査の対象となった範囲は南北に2ヵ所あり、そのうちの南部分を南調査区、北部分を北調査区とした。調査区の周辺は北東に向かって緩やかに傾斜する地形で、遺跡の範囲の北端にあたる。平成7年度に実施した第1次発掘調査区からは、北西に70mほどの場所である。調査区内の層序は、LⅠ＝表土・耕作土、LⅡ＝暗褐色土、LⅢ＝褐色土、LⅣ＝黄褐色土（粘質土）、LⅤ＝黄灰色土（砂質土）とした。遺構の検出は、LⅢ・Ⅳの上面で行なった。LⅡは標高の低い北調査区の北東部分にのみ堆積しており、傾斜地の堆積層と判断できる。LⅢは北調査区では未確認で、標高の高い南調査区で確認した。

作業は南調査区から着手し、確認した遺構から順に掘込・写真撮影・図面作成などといった作業を進めた。遺構の番号は、第1次調査からの連番とはしなかった。写真の撮影はデジタルカメラを使用し、遺構図は20分の1の縮尺で作図した。8月8日には、今回の発掘調査で最も規模の大きい遺構である11号溝の掘り込みに着手した。翌9日には11号溝の掘り込みを終了し、10日に同遺構の断面・平面図の作成と、北調査区の写真撮影を行なって発掘調査を終了した。お盆休み明けの17・18日に重機を用いて調査区の埋め戻しを行ない、屋外での作業を完了した。

屋内の作業は発掘調査の終了後に開始し、出土遺物の水洗・注記・接合・実測・写真撮影、原稿の作成などといった作業を、他の業務と並行して進めた。遺物の図化は原寸で行ない、写真の撮影はデジタルカメラを使用した。報告書の印刷・校正を除く作業が終了したのは、9月29日である。

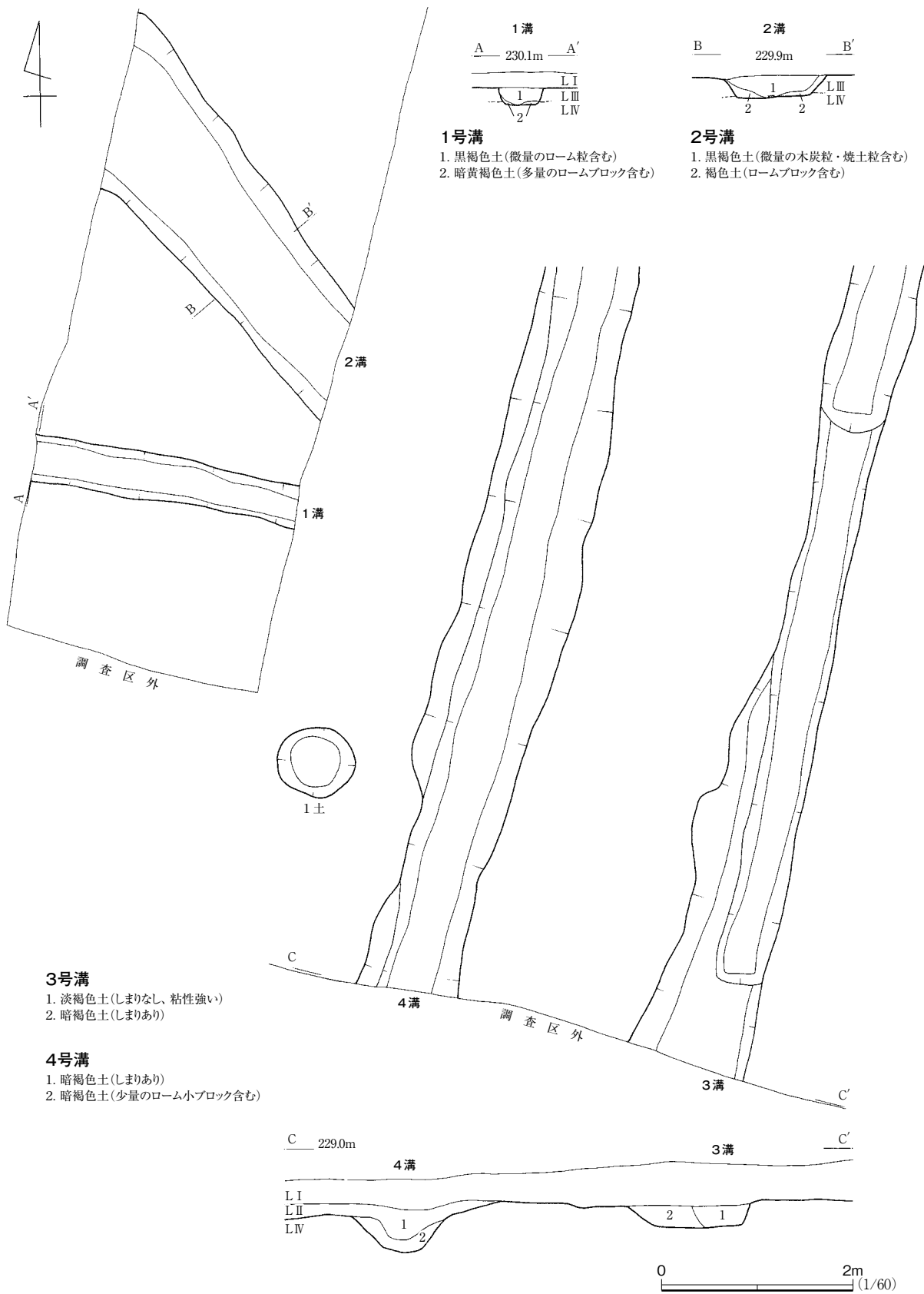
4. 遺 構

南調査区で1・2号溝、北調査区で3～11号溝、1～3号土坑、1～4号ピットを確認した。以下では、遺構の種類ごとに概要を報告する。

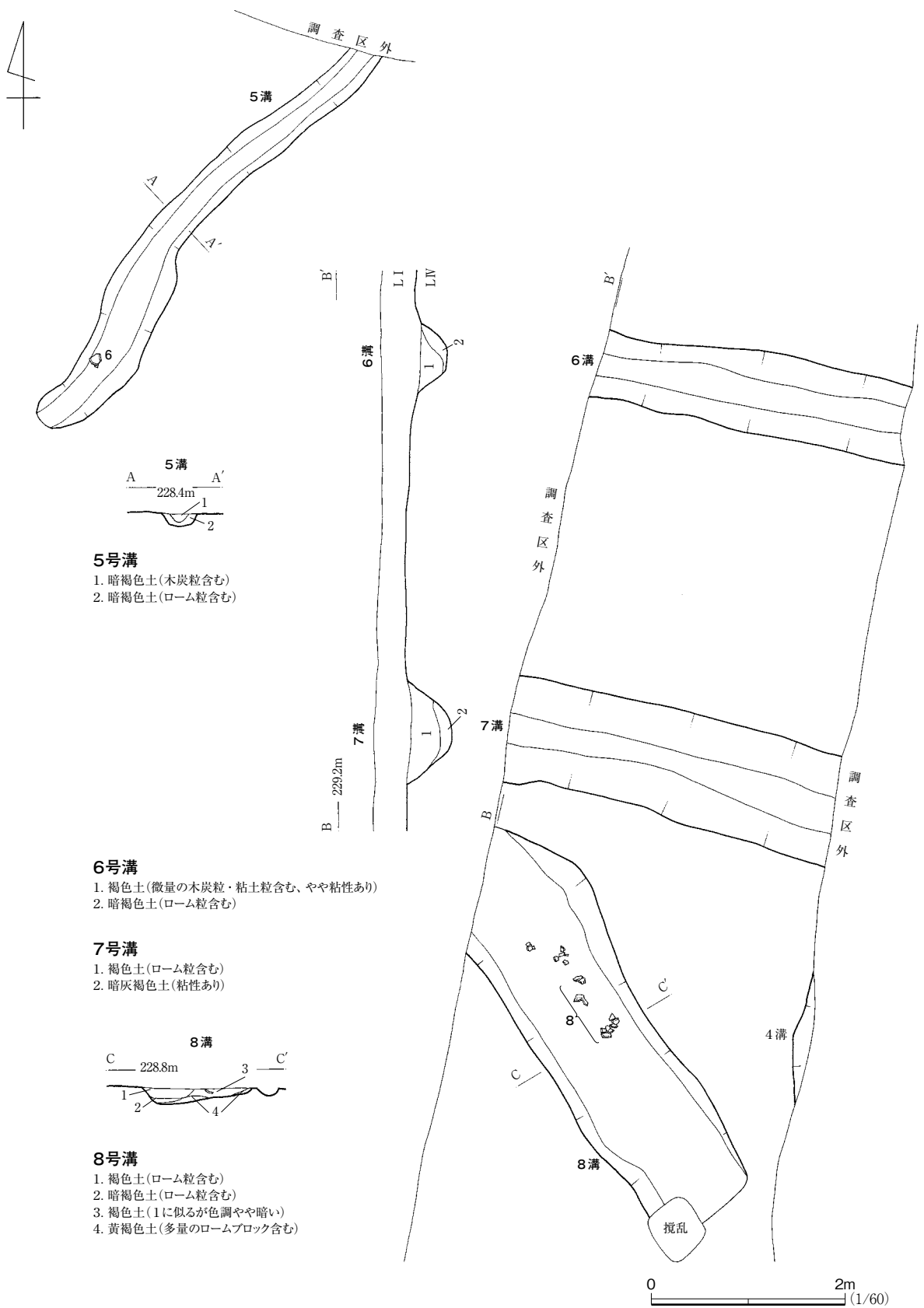
溝 確認した11条の溝は、その方向や形状などによって、いくつかの種類に分けられる。まず目立つのは、際立って規模が大きく、薬研堀のような形状の11号である。北調査区の南部で確認した。ごく一部の確認のため判然としないが直角に屈曲するようであり、何らかの敷地・施設を区画する溝の北西コーナー部の可能性がある。溝の方向と平行して並ぶ1・2号ピットは、この敷地・施設に伴う柱列かもしれない。11号は4号と直接の重複関係にあり、平面観察により4号が古く11号が新しいと判断した。堆積土の下層は水生堆積を示し、上層は人為的に埋められている。窪みとなっていた溝が、最終的に埋められたと解釈できる。この11号と重複する4号は、北調査区の北部では3号と並行する。さらに、3・4号と直交する方向の溝に6・7号があり、南調査区で確認した1号は6・7号と並行する向きである。これらの1・3・4・6・7号は関連すると思われる。南調査区の2号と北調査区の8号はほぼ同じ向きの斜方位で、出土遺物の量が他の溝と比べて多いという共通点がある。ただし、8号は掘り直しにより南西側が深くなっているのに対し、2号ではそのような様相は認められない。北調査区の9号はごく一部の確認で詳細は判然としない。3・4号ピットとおおむね並行する向きであり、両者が関連するとすれば、それぞれが竪穴建物の壁溝と柱穴の可能性がある。この9号とほぼ同じ向きの斜方位となる5号は、直線的ではなく一部がクランク状に屈曲する。北調査区の10号は、壁の立ち上がりガルーズでごく浅い。しっかりと掘り込まれていないように見受けられ、以上でみた各溝とは様相が異なる。各溝の時期は、以下のように推定した。1・3・4・6・7号は第1次調査で14世紀を中心とした時期と評価された各溝と様相が似ており、出土遺物はないがこれと近い時期であろう。4号より新しい11号は、薬研堀のような形状を踏まえれば、近世以降には下らないとみられ、陣場という地名の由来となった天正16年（1588）の郡山合戦に関連する陣の痕跡かもしれない。古墳時代前期を中心とした時期の土師器が多く出土した2・8号は、溝の機能した時期をこれらの土器が示していると思われる。当該期の比較的大きな土師器の破片が出土した5号も、その可能性がある。また、9号が竪穴建物の壁溝ならば、その時期は古墳時代前期と判断するのが妥当であろう。10号は時期を推定する材料を欠く。

土坑 3基とも北調査区での確認である。1号は、平面はおおむね円形だが、壁の立ち上がりは凸凹とした不整な形状である。意図的な掘り込みではないかもしれない。2号は、平面は方形を基調とし、壁の立ち上がりは緩やかである。古墳時代前期の土師器が多く出土した。堆積土は少量のロームブロックを含む均一層で、人為堆積の可能性がある。3号は、ごく一部が確認されたのみで、形状は判然としない。堆積土に多量の粘土ブロックを含み、人為堆積なのは明らかである。ただし、この部分の表土は、他の部分ではみられない粘土ブロックの包含が認められ、確認はできなかったものの、3号が表土中からの掘り込みである可能性もある。その場合、3号は遺構ではないと評価すべきであろう。

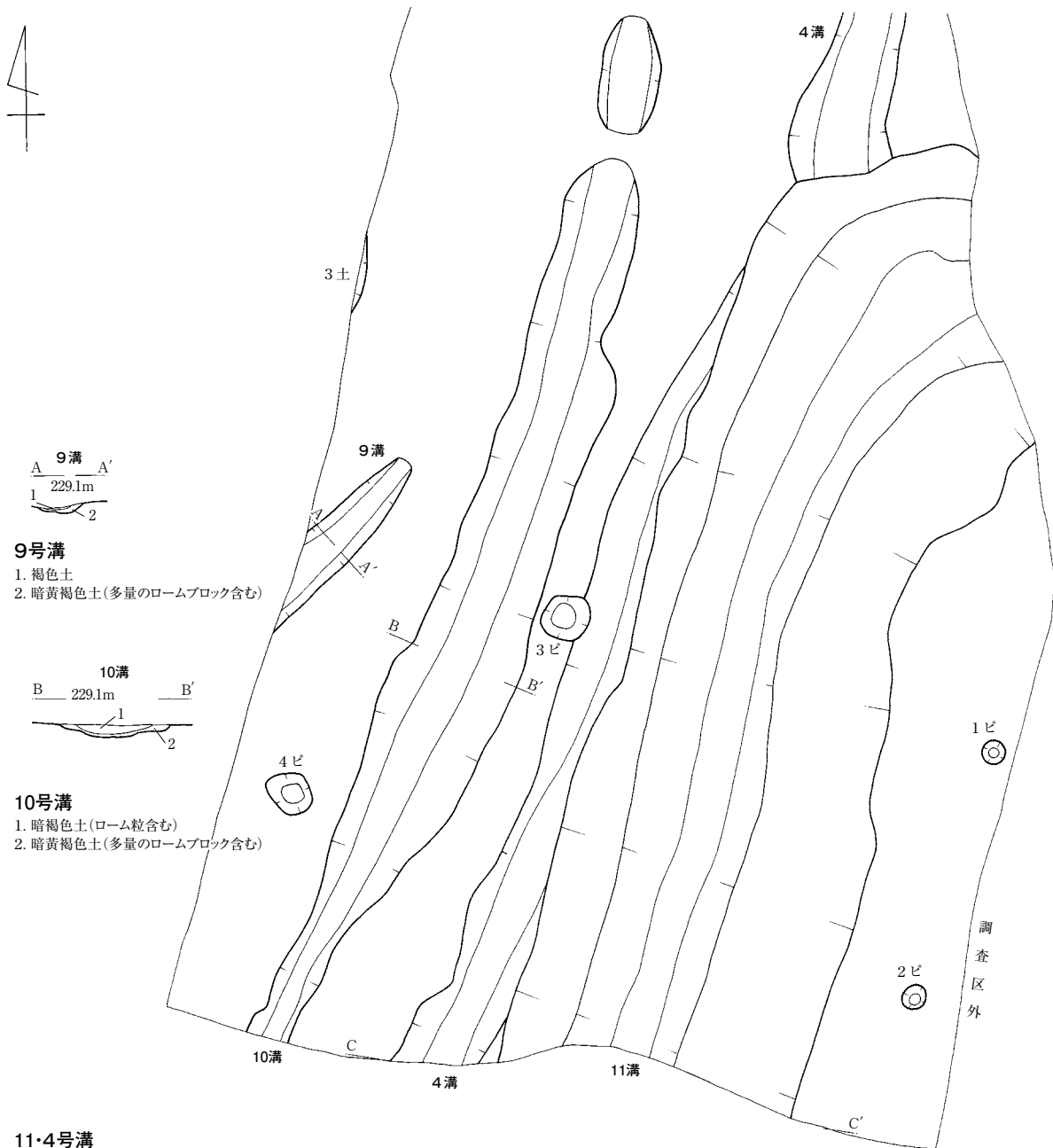
ピット 4基とも北調査区での確認である。溝の項で説明したように、1・2号は11号溝と関連する柱列、3・4号は竪穴建物の柱穴で、9号溝がその竪穴の壁溝の可能性がある。



第4図 1～4号溝



第5図 5～8号溝



9号溝

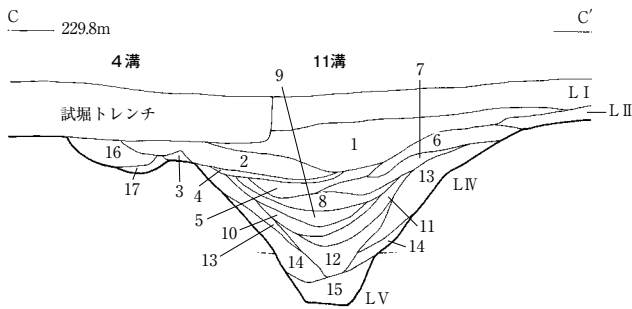
- 1. 褐色土
- 2. 暗黄褐色土(多量のロームブロック含む)

10号溝

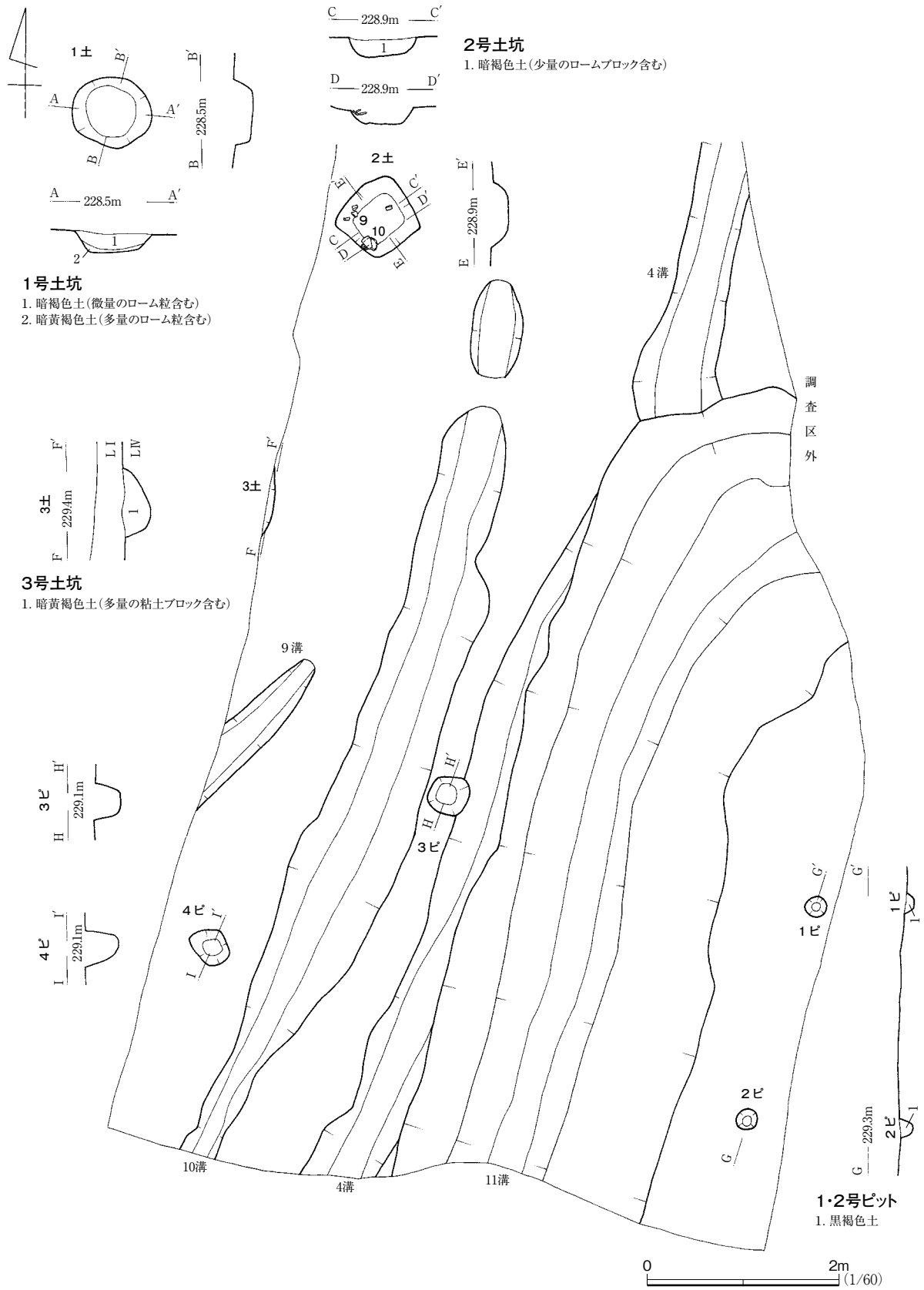
- 1. 暗褐色土(ローム粒含む)
- 2. 暗黄褐色土(多量のロームブロック含む)

11・4号溝

- 1. 暗黄褐色土(多量の粘土ブロック含む)
- 2. 暗褐色土
- 3. 暗黄褐色土(多量の粘土ブロック含む)
- 4. 灰色土
- 5. 黄褐色土(多量の粘土ブロック含む)
- 6. 褐色土
- 7. 黒褐色土(褐色土ブロック含む)
- 8. 灰色土(粘性あり)
- 9. 暗灰色土(やや砂質)
- 10. 灰色土(粘性あり)
- 11. 暗灰色土(やや砂質)
- 12. 灰色土(粘性あり)
- 13. 暗灰褐色土
- 14. 暗灰色土(やや砂質)
- 15. 灰色土(粘性あり)
- 16. 暗褐色土
- 17. 暗黄褐色土(ロームブロック含む)



第6図 4・9～11号溝



第7図 土坑・ピット

5. 遺物

出土した遺物のうち、図化したのは第8図に示した13点である。以下、遺構ごとに概要を報告する。

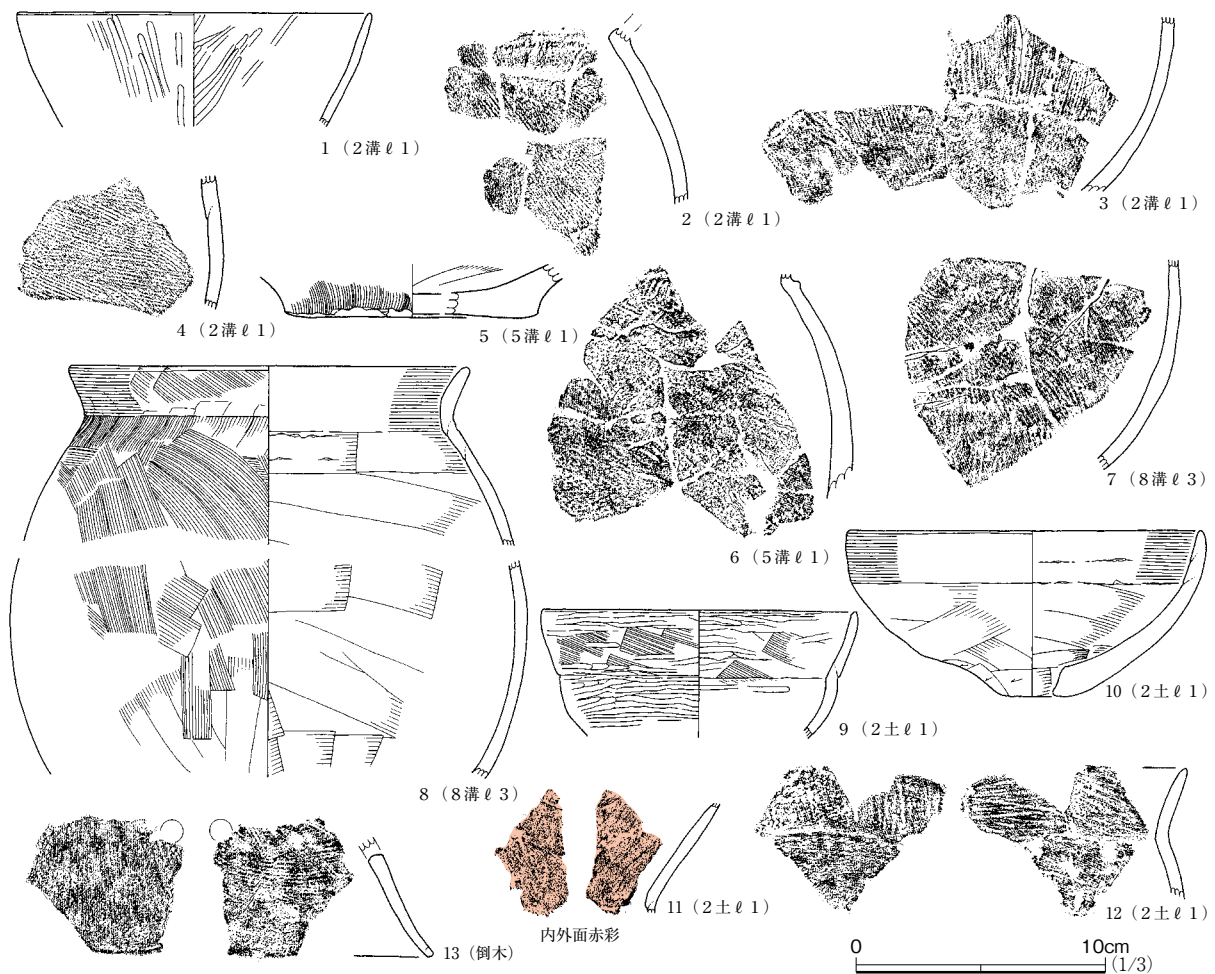
2号溝 1～4の4点を図示した。1は壺の口縁部破片で、内外面ともにヘラミガキされている。2～4は甕の胴部破片で、外面にハケメが施されている。4のみハケメが横方向である。

5号溝 5・6の2点を図示した。5・6とも甕の破片で、外面にハケメが施される。5は底部、6は胴部である。同一個体の可能性もあるが、胎土・色調は異なる。

8号溝 7・8の2点を図示した。7・8とも甕の破片で、外面にハケメが施される。7は胴部である。8の口縁部と胴部は接合しなかったものの、胎土と色調が近似していたため同一個体と判断した。

2号土坑 9～12の4点を図示した。9は鉢で、不明瞭ながら内外面がヘラミガキされている。10は有孔鉢である。底部に単孔を穿つ。内外面ともに調整はナデである。11は壺の口辺部破片とみられ、内外面に赤彩が認められる。12は鉢もしくは甕の口縁部破片で、内面に横方向のハケメが施される。

遺構外 13の1点を図示した。小破片のため器形の判断は難しいが、円孔の痕跡がみられることから器台の脚部と判断した。内面にハケメが施され、外面はヘラミガキされている。



第8図 出土遺物



写真図版



南調査区



北調査区



北調査区中部分





1号沟断面



2号沟断面



3号沟断面



4号沟断面



5号沟断面



5号沟遺物出土状况



6号沟断面



7号沟断面



8号溝断面



8号溝遺物出土状況



9号溝断面



10号溝断面



11号溝断面



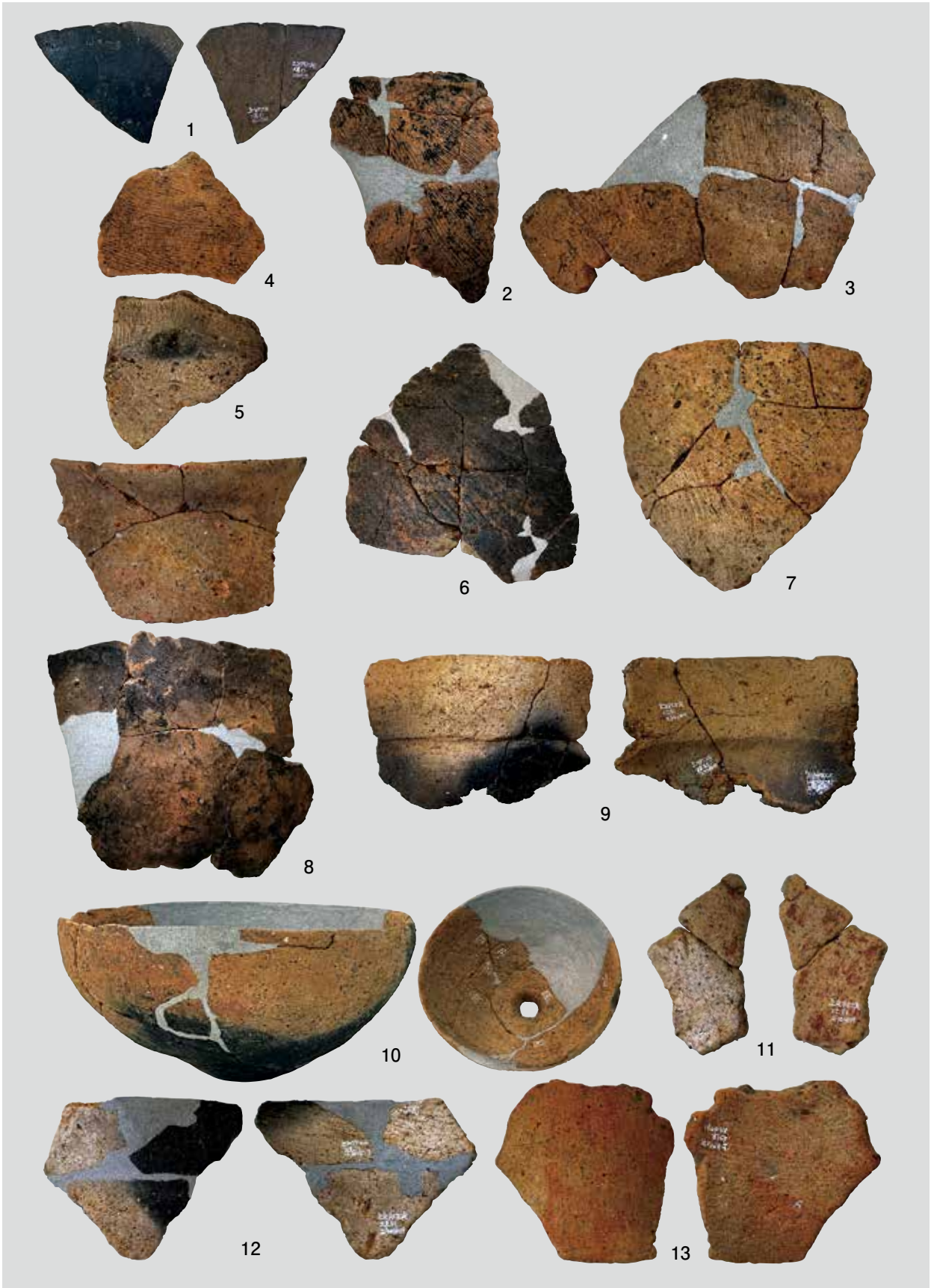
1号土坑



2号土坑



3号土坑



出土遺物

報告書抄録

書名	宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務 上之内遺跡 第2次発掘調査報告書							
編著者	垣内和孝 荒木麻衣							
編集機関	公益財団法人郡山市文化・学び振興公社文化財調査研究センター							
所在地	福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番						TEL 024(959)3305	
発行機関	郡山市教育委員会							
所在地	福島県郡山市朝日一丁目23番7号						TEL 024(924)2661	
発行年月日	令和5年(2023)12月22日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上之内遺跡 (第2次)	福島県郡山市富久山町 福原字陣場	2036	958	37° 25' 5"	140° 24' 31"	20230721 ~ 20230818	344㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
上之内遺跡 (第2次)	集落 城館	古墳時代前期 中世後期	溝11条 土坑3基 ピット4基	土師器(古墳時代前期)				
要約	古墳時代前期と中世後期の遺構を確認した。							

宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査業務

上之内遺跡

—— 第2次発掘調査報告書 ——

令和5年(2023)12月22日

編集 公益財団法人郡山市文化・学び振興公社
文化財調査研究センター
〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀之内字畑田23番

発行 郡山市教育委員会
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号

印刷 株式会社ヨシダコーポレーション
〒963-0724 福島県郡山市田村町上行合北川田22番1号

